



6月園だより

2023年6月
尚徳福祉会
沼袋西保育園
園長

「わがママと自己主張」について

汐見稔幸 著「元気が出る子育ての本① 0～3歳 能力を育てる 好奇心を引き出す」より

新年度がスタートして、あっという間に2カ月が経ちました。

すっかり新しい環境に慣れた子どもたち。園庭で遊んでいると、ひよこ組の扉をのぞき込み、赤ちゃんの様子を伺っています。やさしい視線を送っていると、興味を示した赤ちゃんたちが集まってきます。窓越しに手を重ね合わせたり、微笑んだり、穏やかでやさしい時間が流れています。言葉がなくても心を通わせる姿に心が温かくなります。

これから梅雨入りすると、戸外に出る機会は少なくなるかも知れません。雨の季節を楽しく過ごせる工夫をし、雨音を聞いたり、雨粒に触れたり、梅雨ならではの自然を感じる機会も大切にしていきたいです。

衛生面でも気になる時期になりますので気持ちよく健康に過ごせるように気を付けていきたいと思えます。6月も元気に過ごしてまいります。



☆6月の予定☆

- 1日(木) プラネタリウム(ゆり組)
 - 2日(金) 避難訓練
 - 6日(火) 幼児身体計測
 - 7日(水) 乳児身体計測
 - 8日(木) 0歳児健診・夏前健診(幼児組)
 - 22日(木) 0歳児健診・夏前健診(乳児組)
- ※12・26日の月曜、英語であそぼう(幼児組)

☆7月の主な予定☆

- 4日(火) 避難訓練
 - 5日(水) 幼児身体計測
 - 6日(木) 乳児身体計測
 - 7日(金) 七夕
 - 13日(木) 0歳児健診
 - 21日(金) 夏まつり
 - 27日(金) 0歳児健診
- ※10・31日の月曜、英語であそぼう(幼児組)

☆お知らせ・お願い☆

○気温が上がると子ども達が外遊びの中で、水や泥の感触に親しみ、夏の遊びを楽しみます。汚れても良い服装で、またお洗濯物が増えるかも知れませんが、ご理解ご協力の程、どうぞよろしくお願いいたします。

○6/8(木)は幼児組、6/22(木)は乳児組の夏前健康診断を9時半～行います。なるべくお休みのないようご協力をお願いいたします。

○6/20(火)に 高校より生徒さん10名が保育体験実習にきます。8:45～10:30の予定で各クラスに入ります。ご理解の程、どうぞよろしくお願いいたします。

○6/20以降、 区より現況調査が行われます。今年度、月極延長を利用されている方、土曜日保育を利用されている方、また今後利用予定のある方は、区へ提出前に園へコピーの提出をお願いいたします。

○7/3(月)～7/14(金)の期間、実習生が各クラスに入ります。ご理解ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

○9時半までの登園をお願いいたします。お休みや受診等で遅れる場合も同様9時半までにご連絡をお願いいたします。

わがママな赤ちゃんなんていない

ほんとうのわがママとは、「こういうことを言うのはむちゃなんだ」「お母さんも周りの人も迷惑するんだ」とわかっていて「したい」と主張することです。0～2歳のころにはわがママなんてありません。3～4歳になって、自我ができてから出てくるものです。0～2歳期で「わがママ」「わがママでない」というのは「甘えがひどい赤ちゃん」「淡白な赤ちゃん」といいかえたほうがいいと思います。甘えるというのは、発達上欠くことのできない大事な行為ですから、十分に甘えさせてあげてください。

「甘え」と「甘やかし」と混合して使われていますが、「甘やかし」は、本来自分でできることをさせないで大人がやってしまうとか、人に迷惑がかかるとわかっていて、かってをさせることですから、こちらはいわゆる「わがママ」です。

一方、「甘え」は心の安定を求めて信頼できる相手に受容を求めることです。そして十分に満足のいくまで甘えることができると、心が満たされて、再び自分を取り戻すことができます。お母さんやお父さんに甘えてくる時は、何か心の動揺があったときですから、しっかりそれにこたえてあげることがとてもたいせつなことです。それをわがママと勘違いして、親が厳しい態度をとると、子どもは心のエネルギーを補充することができなくて、精神的に不安定なままになってしまいます。

自己主張は大事なこと

一方、自己主張というのは自分の感情や欲求に対して徹底的にこだわることです。たとえばコップで飲むのがまだへたな赤ちゃんに手を添えて飲ませてあげようとすると、怒ってコップごとひっくり返したり、お母さんが用意した服が気に入らなくて、無理に着せようとすると泣きわめいたり。自分の感情や欲求を出せない子より、いずれどこかで折り合いをつけるにしても、自分を主張できる子のほうが、よほど将来が楽しみといえます。3歳を過ぎると、いままではダダをこねるような自己主張だけだったのが、きちんと理由の言える自己主張をする子が出てきます。

親子がぶつかったときは

「自己主張のすすめ」を述べているわけですが、実際に毎日の育児の場面では、自己主張を歓迎してばかりはいられないということもよくあります。パジャマから服に着替えさせようとしても、嫌がって逃げ回ったり、出勤時間の迫ったお母さんと一緒に保育園へ行くのに、ボタンを自分ではめる、といてうまくできず、かんしゃくを起こしてますます時間ばかり過ぎてしまったり。親子のぶつかり合いの場合、どこかで妥協しなくてはならないのですが、実害がなければ、子どもの言い分を認めてあげて、親が譲ってもいいのではないのでしょうか(保育園に行くという場合は時間の余裕を持って対応するか、気分の転換をはからせるとかなんらかの対策が必要でしょう。)親が子どもに譲るといっても、他人に害を及ぼす場合にはきちんと「ダメ」と言ってけじめをつけます。これを許していると、ほんとうのわがママになってしまいますから。

我が家の息子も物心ついてからずっと黄色い服しか着なかったため、祖母がお土産に持ってきてくれたかわいい服でも絶対に着ることはなく、「かわいくないね」と言われていました。この子はこだわりの子で、一事が万事この調子。それはそれは一生懸命自己主張します。確かに育てにくい子ではありましたが、私も妻も他人に迷惑をかけない限り認めてやることにしていました。自己主張する能力はあとからではつけることができないからです。このことを知っていれば、親の都合で子どもの自己主張を押さえつけなくてはならないときも、だいぶ対応が変わってくると思えます。この子のこだわりは、小学校4年生になって料理になり、長じてはスノーボードに発展しています。

甘えとわがママを繰り返す子

両親の不和とか、事情があって一時よそに預けられていたなど、家庭内に問題があって、赤ちゃんから幼児期にかけて甘えの体験が足りないと、自我の満足感をとり戻したくて、甘えとわがママという大きな揺れになって現れることがあります。こうしたときはわがママも十分に受け入れてやらなければなりません。本人もむちゃを言っているにもかかわらず、手をかけてもらいたくてわがママを言っているのですから。発達というのは、一本のまっすぐな登り道ではなくて、ジグザグの道を進みます。幼い子どものわがママは戻り道の現象なのだと理解してください。